

【地域の危険度マップ】



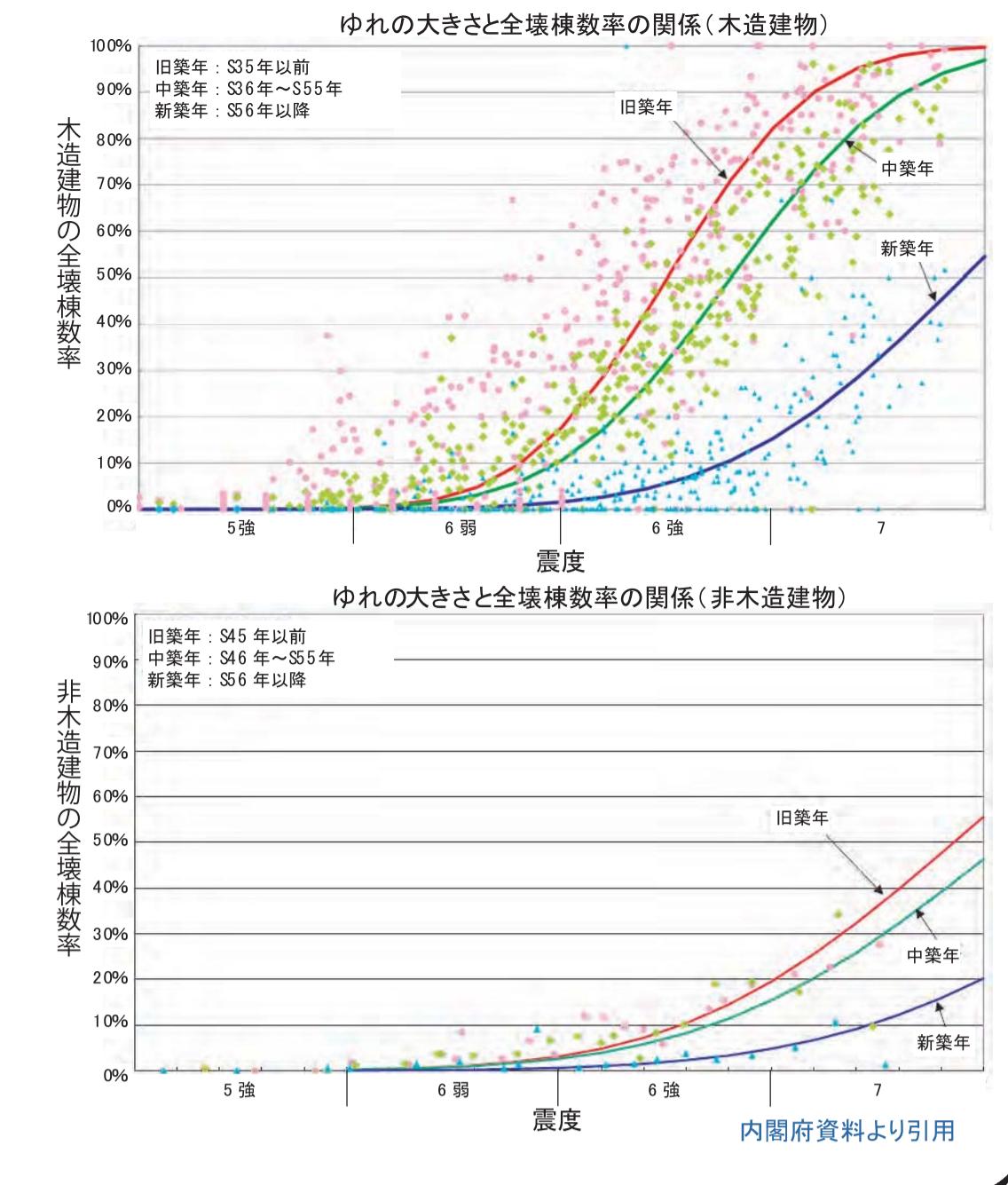
地域の危険度マップとは？

地域の危険度マップとは、ゆれやすさマップで想定したゆれやすさ地区内の建物の構造・築年数を集計したデータから建物全壊棟率を算定し、色分けしたものです。建物全壊棟率が高いほど、建物・家屋の被害が発生する可能性が高くなります。

建物全壊棟率とは？

建物全壊棟率とは、ある区域内(大字)にあるすべての建物のうち、何棟が全壊する可能性があるかを示す指標です。例えば建物全壊棟率が10%だと、100棟の建物のうち10棟が全壊する可能性があることになります。

これは阪神・淡路大震災など過去の地震での震度と建物被害率の関係から設定されています。右のグラフに示すように、同じ震度でも建物の形式(木造・非木造)や築年数によっても被害率は異なります。マップではすべての形式、築年数を考慮した全壊棟率を示しています。



地震による建物被害



※マップに示す建物全壊棟率は、地域ごとの危険度を相対的に示したものであり、個別の建物の危険度を示すものではありません。実際の被害を受けるかどうかは、建物ごとに異なりますので、注意してください。
※地域の危険度マップは、建物に付属する門柱やブロック塀などの危険度は含まれていません。建物の危険度は低くてもこれらの被害が発生することがありますので注意して下さい。
※マップで使用した地図は、平成13年3月に作成されたものです。一部現況と異なる場合があります。

| 凡例 |
|-----------|
| ○ 大網白里町役場 |
| 駅 |
| JR線 |
| — 有料道路 |
| — 国道 |
| — 主要幹線道路 |

【液状化危険度マップ】

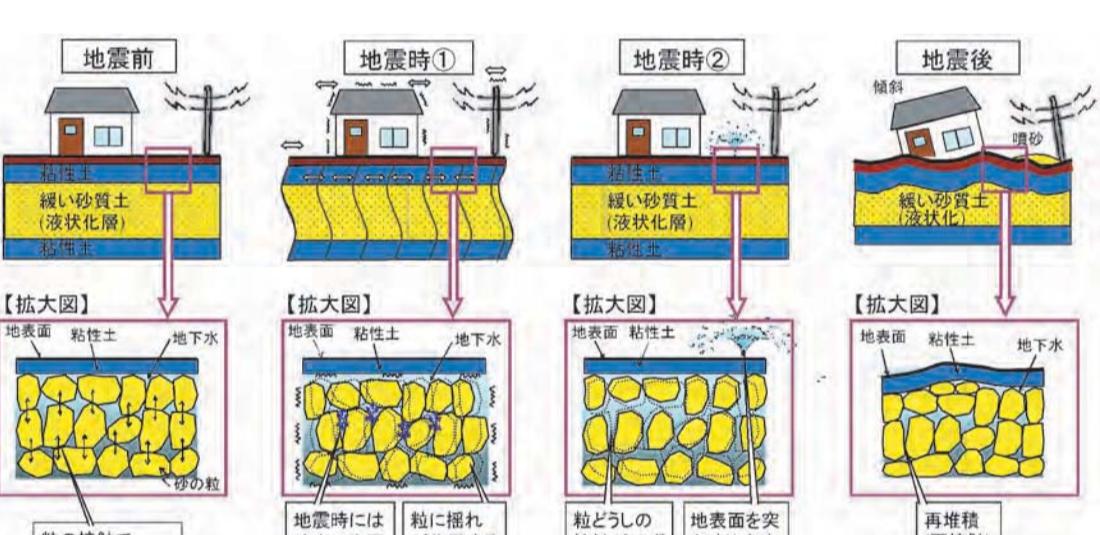


液状化危険度マップとは？

液状化危険度マップとは、ゆれやすさマップで想定したゆれが発生した場合に、液状化が発生する危険度を色分けしたものです。

液状化現象とは？

地盤の液状化とは、地下水位以下にゆるい砂の地層があると、地震により砂粒同士の接触が崩れて砂層が泥水のようになり、地盤の強さが失われる現象です。泥水は地表面に噴出したり、その上にのっている建物が傾いたりします。地震の大きさやもどろきの地盤の固さで被害の程度が異なります。



液状化危険度とは？

| 液状化危険度 | 現象 |
|-------------------------------------|---|
| 危険性が高い ※今回の想定では大網白里町内に該当箇所はありません | <ul style="list-style-type: none"> 地割れから泥水が大量に噴出したり、地盤が陥没したりする。 直接基礎の建物が地中にめり込んだり、傾いたりする。 杭基礎の建物は沈下しないが、周辺の地盤との段差が発生する。 橋に水平方向への大きな地盤移動が発生する場合もある。 マンホールなどの地中構造物が浮き上がる場合もある。 |
| 危険性がやや高い | <ul style="list-style-type: none"> 小規模な地割れから泥水が噴出する場合がある。 直接基礎の建物は沈下・傾斜したりする可能性があるが、その量は小さい。 杭基礎の建物はほぼ健全性が保持される。 橋にコンクリートなどの地中構造物が浮き上がる場合もある。 |
| 危険性が低い | <ul style="list-style-type: none"> 橋に泥や砂が出てくる場合もあるが、有害な沈下や亀裂は発生しない。 建物には有害な沈下や変形が生じる可能性は低い。 |
| 危険性が極めて低い 液状化は起こらない | <ul style="list-style-type: none"> 液状化が起こらないので、沈下や段差・亀裂等は発生しない。 山地、台地など地形的に液状化が生じる地盤がない。 |



液状化による被害



※マップに示す液状化危険度は、地形区分(台地、平野など)により判定したものであり、地下の地盤状況を反映したものではありません。実際には同じ地形であっても地盤状況が異なると液状化したり、しなかつたりしますので、注意してください。
※今回のマップには反映されていませんが、小さな池を埋め立てて造成したようなところは液状化が生じやすくなりますので、注意して下さい。
※マップで使用した地図は、平成13年3月に作成されたものです。一部現況と異なる場合があります。

| 凡例 |
|-----------|
| ○ 大網白里町役場 |
| 駅 |
| JR線 |
| — 有料道路 |
| — 国道 |
| — 主要幹線道路 |